

「ロータリー情報・職業奉仕 合同セミナー報告」



地区職業奉仕委員会
委員長 鈴木 一作(寒河江)

平成25年9月1日(日)、天童市の市民文化会館で「ロータリー情報・職業奉仕合同セミナー」が開かれました。

今回のセミナーの目的は、①ロータリー情報については、『決議23-34を正しく理解する機会となること』、②職業奉仕については、『職業奉仕理念の歴史の変遷を正しく理解する機会となること』、③各クラブにおいて、『フォーラム形式の職業奉仕例会が、今後ますます盛んになること』の3つです。この3つをなぜセミナーの目的に据えたかについて、少し述べさせていただきます。

「決議23-34は大事だ」と言うロータリアンは多いものの、その意義や内容をよく知らない人や誤解している人が少なからずいるようです。それについてロータリー情報小委員会の高橋寛人委員長と話し合ったところ、「1905年のロータリー誕生から1923年に至る歴史の中で、『親睦と実業互恵』から『社会奉仕と職業奉仕』の考え方がどのように生まれ発展してきたか、また矛盾と対立の中で成就した決議23-34の意義とはなにかについて知っておくことは、ロータリーを正しく理解するためには大切である」という認識で一致いたしました。しかも、「ロータリーの歴史と職業奉仕の理解増進」は、本年度の地区重点スローガンの1つでもあります。

一方、全国的には「忘れられた職業奉仕」という言葉をよく耳にします。実際、職業奉仕フォーラムの例会が不十分だったり、または開催されなかったりなどの話も聞かれます。さらに、最近では職業奉仕だけでなく、クラブ奉仕や社会奉仕に関するフォーラムも、おざなりにされる傾向があるそうです。こうした点についても、「例会でのフォーラムの重要性を再認識し、フォーラムが活発になるよう働きかけていく」ことで、高橋委員長と意見が一致いたしました。

以上より、前述の①②を基調講演のテーマとし、③についてはセミナーそのものを「基調講演—テーブルディスカッション—発表会」というフォーラム形式で行うことになりました。

当日は地区副幹事の原田正夫氏の司会進行のもと、開会挨拶では、新関彌一郎ガバナーが「ロータリーの歴史と職業奉仕の理解増進」の大切さを語ってくださいました。

その後、小生が「知っておきたい「ロータリーの職業奉仕と社会奉仕の歴史」と題した基調講演をさせていただきました。その詳しい内容については紙面の関係で割愛しますが、参加された皆様の知識の再整理や得心につながったとすれば、この上ない喜びです。

基調講演終了後は、「私が考える職業奉仕、私が実行している職業奉仕」というテーマで、テーブル毎に各10名程度のグループディスカッションを行いました。その後、各テーブル代表者(地区委員)から、話し合った内容を壇上で発表していただきましたが、経験豊かでプロ意識の強い

ロータリアンが集まったの話し合いだけあって、その含蓄ある内容は職業奉仕の真髄を突いたものばかりでした。

その後、クラブ奉仕グループ塚原初男カウンセラーから講評をいただき、「本日のセミナーの内容を各クラブのメンバーに伝えるとともに、フォーラム形式の例会行事が盛んになるように」とのことでした。

最後に新関ガバナーから、「ロータリーについて互いに胸襟を開いて話し合うことは、互いのロータリー知識が深まるだけでなく、親愛や敬愛の情も湧き、まさにロータリーらしい活動である」という感想をいただき、セミナーが終わりました。

鶴岡南RC&鶴岡RC合同「職業奉仕フォーラム」

～鈴木一作地区職業奉仕
委員長を迎えて～



鶴岡ロータリークラブ
会長 嶺岸 禮三

8月29日、鶴岡市国際村研修室で標記フォーラムを開催しました。7月7日の地区フォーラムで鈴木委員長の話に刺激を受けた鶴岡クラブでは、委員長を迎えて職業奉仕フォーラムをやりたいと考えました。第一回のクラブ協議会でこの案を佐藤友行委員長が発表したところ、同席していた恩田第2ブロックガバナー補佐から鶴岡南クラブがすでに超多忙の鈴木委員長を抑えてあるので合同で開催してはどうかという提案を頂き、とんとん拍子で話がまとまり、合同フォーラムを開催する運びとなりました。

当日は両クラブ合わせて40名ほどの会員が集まり、始めに鈴木委員長から「ロータリーの綱領と職業奉仕の歴史」という題で基調講演を頂きました。私(筆者)はロータリー歴25年ほどで、これまで何度か職業奉仕に関する講演を聞きましたが、鈴木委員長の解説ほどわかりやすい「職業奉仕論」は初めてでした。それは「職業奉仕」の歴史の変遷を綱領とそれに関わった主要人物とを紹介しながら解説された点にあると思います。

冒頭の委員長の言葉です。「職業奉仕は難しい。人によって語る内容が違う。シェルドンの顧客満足度、和田直前ガバナーは職業倫理を強調、天童の野川パストガバナーは職業倫理訓。話を聞けば聞くほど分からなくなる。こういう立場を頂いて改めて自分なりに勉強しなすと、成程こう考えればいいのかというところに行き着いた。今日の話が皆さんの職業奉仕について学んできたことの再整理につながれば幸いです。」そして、「結論を言うと、職業奉仕は大木ではなく、森だと考えるとかなりよく分かってくる。森にはいろいろな木が生えている。職業奉仕の森には、職業倫理の木、シェルドンの奉仕の理想の木、職業は天職だという木、職業人としての社会奉仕の木、森だからいろいろなところに木々群がある。どれも正しいし、どれか一つを取って職業奉仕だという訳でもない。すべてを含んでいると考えれば、どんな人の話を聞いてもストンと胸に落ちていくのかなと思います。」

続いて綱領の解説に進み、「1951年から今の綱領が使われている。Objects of RotaryがObject of Rotaryになったた

め、最初にある奉仕の理想を謳ったものが本文で、その下にある4つは付随項目であるという考え方が定着。2013年に日本語訳が変わったが、英語版は1951年のまま。本文は奉仕の理想を示し、第2項目『事業及び専門職務の道徳的水準を高めること』これは職業倫理、『あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること』は天職から来ている。『ロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕する』これは、職業は社会への奉仕という考え方。『その業務を品位あらしめること』は職業倫理。綱領には①奉仕の理想、②職業倫理、③天職、④社会への奉仕という四つの考えが盛り込まれています。」綱領の第2項目はまさに“職業奉仕の森”そのものだと言われ、ここから1905年のロータリーの創設時から1951年の現在に至るまで、綱領の中にどのように「職業奉仕」の思想が表現されてきたのか、シェルドンやガイ・ガンディカーといったその当時ロータリーに最も影響を与えた人物を紹介しながら紐解いていきました。思想史としても人間ドラマとしても興味深い話でした。

最近の“森”で勢いのあるのは「職業人としての社会奉仕」という木で、この立場では、心あるロータリアンが行う社会的行為は、全て職業奉仕であるとのこと。例として、大工さんが、顧客の注文に応じて、良い家を建てるのも、公園にベンチを作って市に寄付するのも、学校で、児童に工作指導するのもこれみな職業奉仕。

鈴木委員長は最後に「奉仕の理想とは、thoughtfulness（思いやり）、helpfulness（助力）。ロータリーの中で奉仕の機会としていろんな人と知り合いになって、友情を深め合って、いろいろ学んで根を張りなさいということ。奉仕をする心の醸成、綱領の第2天職、職業倫理を謳っているところではまずロータリー精神と職業倫理を確立し立派な職業人になる、これが幹だと思っています。綱領の第3、個人生活、社会生活、事業生活、第4、国際奉仕を述べています。第1第2で心を学び、第3第4で実践する。そしてそこで学んだことをクラブに持ち帰ってまた切磋琢磨しながら共有してさらに立派な職業人になっていきなさいというふうに考えると一番わかりやすいのかなと思います。」と締めくくりました。

その後グループディスカッション、テーブル発表があり、面白い話も出ましたが、参加者は口々に大変わかりやすかった、勉強になったと話していました。職業奉仕の森から気に入った木を見つけ、挿し木して自分なりの木に育て、それを森に植えて森を豊かにしていく、そんな事を考えた

職業フォーラムでした。鈴木委員長に深謝して会を閉じました。

ロータリー情報・職業奉仕合同セミナー報告 ～私達ロータリアンが深め実践すべきこと～

秋の気配を感じる9月1日、天童市市民文化会館を会場に、午後1時から開催された。

本日のテーマは、ロータリーにとって最重要理念である「職業奉仕」について、歴史的側面からと、自分自身の側からの両サイドから追求し、研修をするものであった。出席者全員による「グループディスカッション」は、自分の職業を“社会奉仕”としてふさわしいものにしてゆく実践的取り組みの端緒となった。

(1) 新関ガバナーはご挨拶の中で、自らの職業（薬剤師）にも触れて

「・特にバブル崩壊後の医療は待ち時間3時間、診療3分という異常な状況だ。患者と医師が十分な話し合いの時間をもっていない」という相談を患者から受けたことがある。「職業奉仕」という視点からすると、これでよい訳がない。日本のロータリーでは、特に職業奉仕を重要視しているのだから、本日は自分自身のテーマとして十分に考えて頂きたい。と話された。

(2) 基調講演タイトル「知っておきたい“ロータリーの職業奉仕と社会奉仕の歴史”

講師は、鈴木一作氏（職業奉仕委員長・寒河江ロータリークラブ・医師）。シカゴで発足したロータリークラブが、自分だけの親睦と利益追求を止めて、地域への奉仕、社会奉仕団体へ変貌し、全米に浸透。やがて全世界に拡大してゆく過程を図解とスクリーンを使い、歴史的に詳細説明。奉仕の精神の実践の重要性についても講演された。

(3) グループディスカッションについて

各テーブル10名で16テーブルに分かれ「私にとっての職業奉仕」について、真剣にディスカッションを行い、リーダーがそれをまとめて成果発表した。各自が抱える問題点が浮き彫りにされた。

最後に、クラブ奉仕グループカウンセラーの塚原初男PGは、「職業奉仕は同時に社会奉仕でもある。「地域」はロータリーの奉仕のためにある。この考えを各クラブに持ち帰って頂きたい」と話された。

新関ガバナーは、最後のご挨拶で“各人の奉仕について、自宅に帰ってからも復唱して欲しい。それで今回のセミナーは完結します”と結ばれた。全メンバーが学生のような姿勢で、純粹かつ情熱をもって取り組んだ素晴らしいセミナーであった。

ガバナー月信 副編集長 増川 誠

小国ロータリークラブ創立40周年



2013年9月14日（土）小国ロータリークラブでは、小国温泉松風館において創立40周年記念式典を開催させていただきました。

当日は町内外から多くのご来賓の方々、新関弥一郎ガバナーを始めとする多くのロータリアンの皆様、友好クラブである新湊中央ロータリークラブの皆様ほか、多数のご臨席を賜りました。

第1部の記念式典に引き続き第2部では、同町出身の落語家「山遊亭 金太郎 師匠」による記念講演、第3部の祝賀会では小国小学校6年生による花笠音頭の歓迎もあり、和やかな雰囲気の中で節目を迎えることができました。

これまでの歴史を重んじ、すべての人に感謝し、地域に根差した活動に取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。